

# I ま え が き

平成28年度予算のうち、市税収入につきましては、課税所得の増などにより個人市民税が増加するとともに、家屋の新增築等により固定資産税が増加するなど、前年度と比べて52億円、1.8%増加し、当初予算としては3年連続で過去最大となっています。

一方、歳出面においては少子高齢化の一層の進展等による社会保障関連経費の増加や、大規模施設等整備などのため、本市財政は厳しい状況が続くものと見込んでいます。

このような財政状況においても、市民生活を守るため、将来を見据え、課題に的確対応するとともに、本市の優れたところをさらに伸ばしていくために、必要な施策にしっかりと取り組むことが重要であると考えています。

こうした考え方のもと、平成28年度予算においては、待機児童対策の継続的な推進、小児医療費助成制度の充実、中学校完全給食の導入、地域包括ケアシステムの構築など、「安心のふるさとづくり」と、ライフノベーション、グリーンイノベーションなどの国際化に対応したイノベーションを進める取組、臨海部における国際戦略拠点の形成、中小企業の支援、都市基盤の整備など、「力強い産業都市づくり」を着実に推進するため、必要な予算を配分したところです。

平成28年度予算は、川崎をさらに住みやすいまちにするために策定した、「川崎市総合計画」のスタートを切るための予算になったものと考えています。

また、予算とあわせまして、「今後の財政運営の基本的な考え方」をお示ししたところですが、この考え方に基づき、今後も、「最幸のまち かわさき」を実現し、将来もそうあり続けられるよう、「必要な施策・事業の着実な推進」と、「持続可能な行財政基盤の構築」の両立に向け、中長期的な視点に立った行財政運営にしっかりと取り組んでまいります。

平成28年度予算及び平成27年度予算執行のあらましなどは、以下のとおりです。